

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0172902454		
法人名	有限会社 シャイニング		
事業所名	グループホーム「ファミリー」		
所在地	旭川市永山1条1丁目2番38号 (電話) 0166-48-8100		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年11月14日	評価確定日	平成20年12月9日

【情報提供票より】 (平成20年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 11月 24日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	11人 常勤 8人 非常勤 4人 常勤換算 5.11

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,600 円		
その他の経費(月額)	19,000 円(光熱費) 暖房費6,000円(10月-4月)		
敷金	有() 円 <input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円 <input checked="" type="radio"/> 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,350 円		

(4) 利用者の概要 (11月14日現在)

利用者人数	9名	男性 6名	女性 3名
要介護1	1名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	2名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 71歳	最低 44歳	最高 86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	永山循環器科クリニック、環状通り眼科、いとみ歯科医院
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

この事業所は、介護福祉士・保育士である施設長が、核家族社会における高齢者と幼児のふれあいや交流の必要から、子育て支援センターを併設し、クリスマス会の共催や日常生活の中で、利用者と幼児と親との3世代交流を通して、利用者の認知症の緩和ケアに役立させていることである。また理念である、その人らしい人生をおくれるように、利用者本位のケアを目指し、その人の思いや希望に添った支援がされている。地域との交流も町内会加入し、廃品回収活動に参加したり、事業所主催の夏祭りには、大勢の地域の方々に参加して頂き、交流が構築されてきている事業所である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題として、重度化した場合の対応に関わる指針と同意書は、作成され改善されている。そのほかの課題も改善に向け、職員と話し合い、出来るところから、取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、全員が記入し、ミーティングで話しあい、ケアマネージャーが、それをまとめるかたちで、作成されている。自己評価に取り組むなかで、ケアについて自己の振り返りの機会としている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、町内会長、民生委員、地域の有識者、家族、職員が参加し、事業所の体験昼食会を兼ねて、3ヶ月に1度開催されている。利用者の状況報告、行事の案内や報告、市の指導監査や、外部評価の報告、事業所の運営報告、事故報告や改善策などが話し合わせ、ケアの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、家族に写真を添えて、健康状態、暮らしぶりを便りを通して報告し、また、受診後の体調変化のときは速やかに電話で連絡している。運営推進会議や、来訪時に家族の意見を伺い、意見があれば、速やかに対応することを心がけ、運営に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設している、子育て支援センターとの幼児やお母さんとの交流を通して、地域との関係を深めている。また、町内会に加入し、廃品回収に参加したり、また、事業所の夏祭りには地域の方々を招き、大勢の参加を得る事が出来、交流が構築されてきているが、災害時や緊急時での地域住民の協力関係を構築するまでには至っていない。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を掲げ、見やすいところに掲示し、職員で共有しているが、地域密着型サービスとしての理念についての見直しまでには至っていない。	○	現理念を基盤に、地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、事業所と地域の関係性を謳った理念を再検討されることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「その人らしい人生を送れるように最後までお手伝いさせていただきます」を、玄関入り口や事務所に掲げ、職員は理念を共有し、日々のケアにおいて、利用者がその人らしい生活ができるように支援している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、廃品回収に参加したり、事業所の夏祭りには町内の方々も、大勢参加して頂き、交流が構築されてきているが、災害時や緊急時での地域住民の協力関係の構築までには至っていない。	○	町内会や老人会の行事に参加し、相互の交流を深めたり、また運営推進会議において議題として提案し、災害時や緊急時での地域住民の協力関係を構築されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、全員が記入し話し合い、ケアマネジャーがまとめて作成し、自己のケアの振り返りに活かしている。また、前回の外部評価の改善課題である、重度化したときの指針も作成され、改善の取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に1度開催され、利用者の状況報告、行事の案内や報告、市の指導監査報告、外部評価報告、事業所の運営報告、事故報告と改善策などが話し合われ、ケアの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の講習会への参加や、適時相談などを行い、また、地域包括センター主催の研修や交流会にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、お便りで写真を添え、利用者の健康状態、暮らしぶりなどを報告している。また、体調不良後の受診報告は電話で行っている。遠方の家族に金銭管理の領収書、出納帳のコピーを郵送し、他の家族には、入居料の支払い時に出納確認と領収書を渡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の来訪時に、意見や要望を聞き出せる機会としているが、意見はなかなか表出されない。意見や要望があれば、速やかに管理者と職員は対応する体制は整っている。	○	家族は要望を言いづらい立場であることを理解し、家族の来訪時での雰囲気作りに配慮しながら、もっと声かけをし、意見を聞き出し、その中から思いをくみ取り、運営に反映させることを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者が出た場合は、利用者のダメージを防ぐために、新人研修を1ヶ月行い配置し、その期間に利用者顔馴染みになる様に努めている。又、利用者や家族にもよく説明し、納得頂いている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は年に1度は交代で、グループホーム協議会やグループホームケア研修会の外部研修に参加し、ミーティングで報告を行っている。しかし、働きながらの技術、知識の習得に繋げる内部研修に関しては、計画的な実施までに至っていない。	○	事業所の現状に即し今日的課題を中心にした内部研修を検討し、長期的な研修計画を進めていくことを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	包括支援センター主催の研修会、グループホーム協議会やグループホームケア研究会の研修を通して同業者との交流を図り、情報交換を行いサービスの向上に役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院からの緊急退所、家族介護の限界の場合の入居の時は已むを得ず、いきなりのサービス開始となることもあるが、それ以外は、家族から相談を受け、自宅訪問しアセスメントを取り、更に利用者、家族に事業所見学を頂き、職員と馴染みの関係を作りながらサービスの開始に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はできるだけ、利用者と会話するように心がけている。また、人生の先輩として、利用者から料理方法や、菜園での作付けなど教えて頂き、利用者の興味のあること、できることを見極め、共に支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々の関わりのなかで、本人、家族の意向や希望を聞き出すようにしているが、それを職員全体で共有し、ケアプランに反映させるまでには至っていない。	○	日々の関わりのなかで、利用者の思いや希望を聞き出し、全職員で共有を図り、ケアプランに反映させること期待する。
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意向や希望を反映させ、利用者の担当職員とケアマネージャーが相談しながら、介護計画を作成している。ケアカンファレンスでは状態変化が見られる利用者の話し合いが優先となり、利用者全体についての話し合いまでには至っていない。	○	アセスメントを基に、全職員でカンファレンスを行い、利用者全員について話し合い、ケアプランを作成することを期待する。また、ケアプランの短期目標に対して介護記録を連動して記載する仕組みになっていたもので、効果的に評価できる様に、記載方法の検討を期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1度の、定期的な見直しを行っている。また、利用者の状態に変化がある場合は、その都度見現状に即したサービスの提供を行なえる様に見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診支援、買い物の支援、人形劇の観覧など、柔軟な支援を行っている。また、隣接している子育て支援センターの幼児が日常的に遊びに来てくれ、ふれあいの支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診支援や、協力医療機関による往診などの支援が行われている。また、看護師の健康管理も行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、「重度化した場合における対応に関わる指針」を作成し、契約のときに家族から、同意書を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや自尊心を損ねることのないような声かけや、対応を心がけている。個人情報の書類は事務室に保管され、守秘義務も遵守されている。また、面会簿も個票になっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを尊重し、食事をゆっくり取る方や後で食事される方など、本人のペースにあわせた暮らしの支援をしている。利用者の希望により、買い物、受診などの支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を献立に取り入れたり、また、誕生日には本人の希望するメニューを作成している。同じ食事を共ににすることの大切さを、管理者、職員は理解し、同じテーブルで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週2回の入浴日が決まっており、病院受診で入浴できない日には、別の日に対応している。	○	入浴日が週2回と固定されているだけでも利用者の入浴が困難な状態が予想される。夏などは汗をかくことも多く、入浴日の回数を増やしたり、シャワー浴や足浴も検討するなど、利用者が望む時に入浴を楽しめる体制を整備されることを期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事や誕生会の際に、職員と一緒に食事やおやつを作ったり、菜園の水やり、配膳の手伝いなど、利用者一人ひとりの力を活かした役割を支援している。また、散歩、歌や野球番組の観戦、読書などを楽しみとしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に沿って、買い物、散歩に出かける支援を行っている。夏場には、遠出の外出支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。玄関にセンサーを付け、利用者が外に出かける気配の時は、見守りながら共に周囲を散歩している。また、早めに察した時は、他の事に気が向くように話しかけ配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練を行い、また、職員全員は救急救命講習やAED講習を受けているが、災害時での地域住民の協力関係は構築されておらず、また、緊急連絡網も整備されていない。	○	緊急連絡網を作成し、また、消防署、警察、地域住民と一体となった協力体制を構築し、地域防災の視点から、地域と連動した防災体制を実現させることを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事量や水分摂取量は記録され、職員で共有されている。また、利用者の身体状況に合わせ、カロリー制限など配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天窓が3カ所あり、採光が充分に入り、また居間には、食卓テーブルや椅子の他、ソファが置かれ、快適なスペースとなっている。併設している子育てセンターも午後からは使用出来るので、催し物のときは利用者の憩いの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの物や写真が持ち込まれ、家庭的な雰囲気である。各居室には洗面台が置かれ、居心地よく過ごせるようになっている。		

※  は、重点項目。